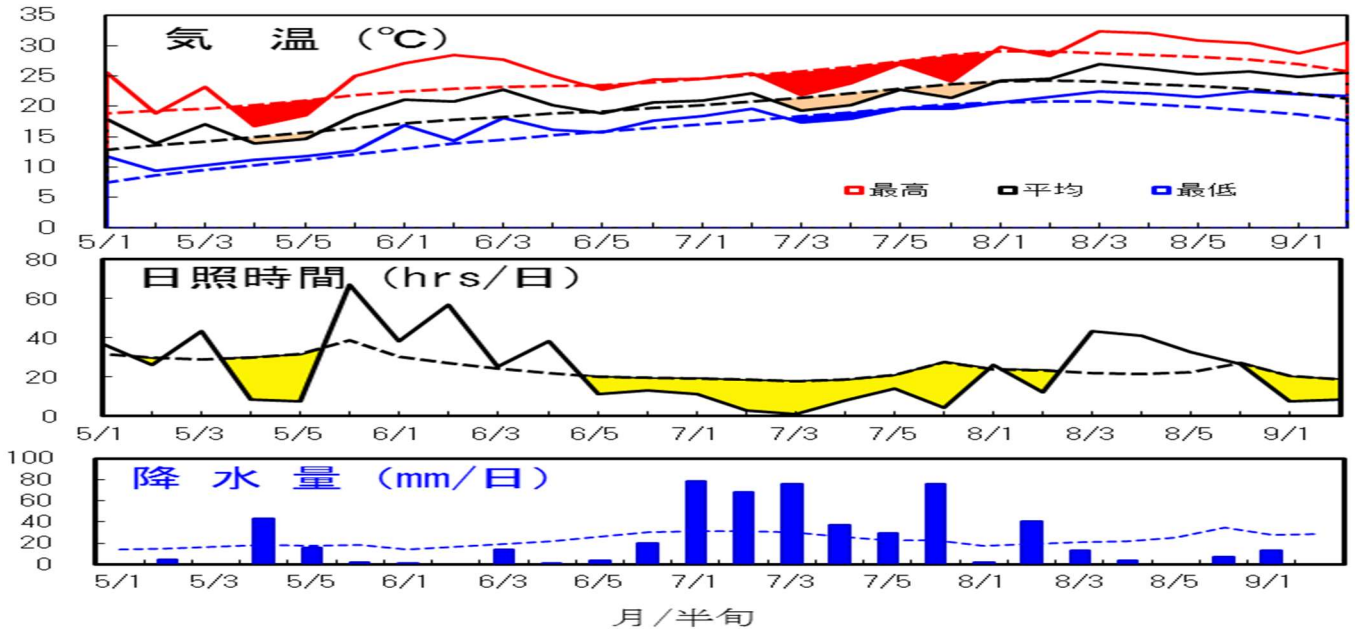


8月の高温・多照・寡雨でかなり生育回復か？適期防除を！！

1 気象経過

(アメダス:古川)



- ・ 7月：平均気温21.1℃(平年差-0.9℃)低温，日照時間42時間(〃33%)寡照，降水量366mm(〃222%)多雨
- ・ 8月：平均気温25.5℃(平年差1.7℃)高温，日照時間182時間(〃133%)多照，降水量68mm(〃57%)寡雨

2 生育状況

(1) 古川農業試験場 (9月2日)

- ・ 主莖長：いずれの品種も標播(5/26播)晩播(7/3播)とも，前年及び平年より短かった。
- ・ 主莖節数：同様に標播，晩播とも概ね平年並〜やや少なくなった。
- ・ 分枝数：タンレイは，前年及び平年よりやや少ないが，他品種は平年をやや上回った。
- ・ 総節数：いずれの品種，両播種期とも前年及び平年より少なかった。
- ・ 着莢節数：ミヤギシロメを除き，前年及び平年より少なかった。ミヤギシロメは並〜やや多かった。

9月2日調査結果

5.26播種

品種	莖長(cm)			主莖節数(節/本)			分枝数(本/本)			総節数(節/本)			着莢節数(節/本)		
	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ	84	▲3	0	15.8	▲1	▲0.9	4.1	▲1	▲0.6	40	▲7	▲6	27	▲7	▲6
タチナガハ	90	▲14	1	17.1	0.1	▲0.3	5.6	0.4	0.6	43	▲4	▲7	29	▲4	▲6
ミヤギシロメ	115	▲12	▲8	18.7	▲0.4	▲0.9	6.7	2.1	1.9	57	▲1	▲3	34	3	9
平均	96	▲10	▲2	17.2	▲0.3	▲0.7	5.5	0.6	0.6	46.7	▲4.0	▲5.3	30	▲2.7	▲1.0

7.3播種

品種	莖長(cm)			主莖節数(節/本)			分枝数(本/本)			総節数(節/本)			着莢節数(節/本)		
	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ	54	▲22	▲19	12.6	▲0.4	▲0.2	2.4	0	▲0.1	22	▲2	▲2	16	0	1

※7月の低温寡照により県内の大豆は平年よりかなり生育不良であったが，8月の高温多照でかなり回復していると思われる。

3 今後の管理

(1) 排水対策

- ・秋の長雨によって子実の登熟が阻害されるので、再度明渠などの状況を確認し、必要に応じて補修する。
- ・収穫時期に黒根腐れや立枯性病害などの発生が懸念されるので排水対策を徹底する。
- ・県内では、7月の多雨から一転して8月の寡雨により、かなり土壌が乾燥している圃場が見られた。

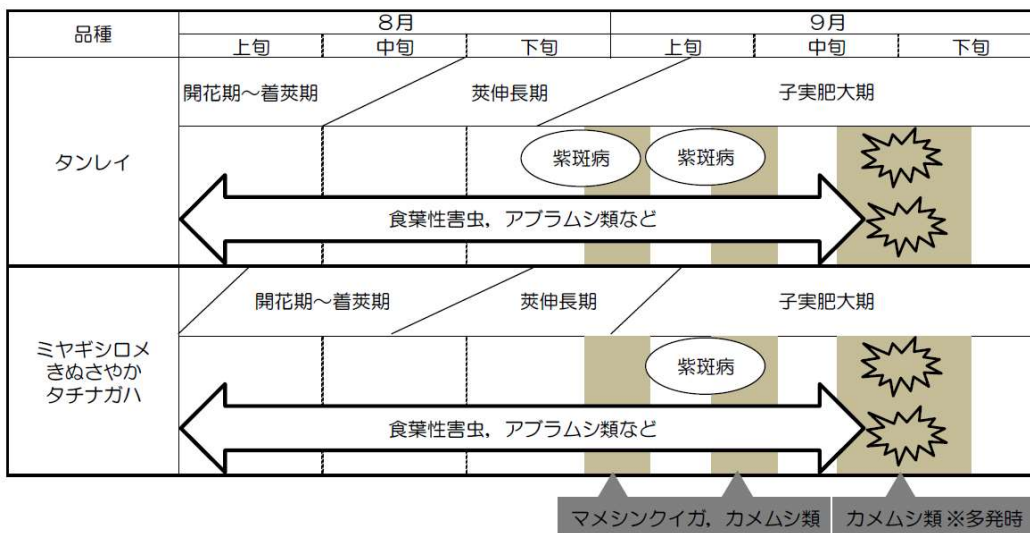
(2) 雑草対策

- ・中耕培土が遅れたり、実施回数の不足により、雑草の発生が散見される圃場がある。
- ・大型の雑草は、収穫時の汚粒発生の原因となるので収穫前に圃場を良く見回り圃場内から除去する。
- ・アサガオ、アレチウリ等の外来雑草が、ここ数年で川沿いを中心に一般的にみられる状況となっており、次年度に向けて少しでも密度を減少させるよう除草作業を徹底する。



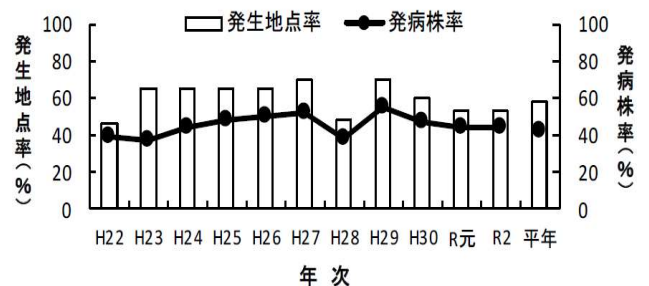
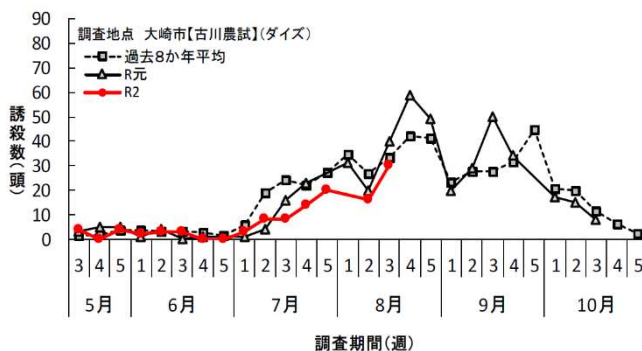
(3) 病虫害防除

- ・病虫害防除は、9月中旬頃の子実肥大期頃まで実施し、収量の確保と品質向上を図る。
- ・茎葉が繁茂している圃場では、莢まで薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。(下図 大崎普及セ作成)



病虫害の防除体系例

(4) その他の病害発生状況 (病虫害防除所)



べと病の発生病発生率及び発病株率の年次推移